

## 第4回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇日時 令和2年11月14日(土) 10時30分～12時30分

◇方法 Zoomによるオンライン会議システム

◇参加者 篠原(中国深圳日本人学校)

坂元・池田(学生)

井上・阪口(万葉文化館)

中澤・米田・大西(奈良教育大) 計8名

### ◇内容

#### 1. 篠原先生 「万葉集を通して、日本と中国のつながりを学ぶ」の授業構想の検討

国際結婚家庭の生徒が多いので、休み時間等に日本特有の文化や中国特有の文化について話している姿も見かける。しかし、このような話の帰着として、「日本は日本、中国は中国」といったように、それぞれを独立したものとして捉えて終わることが多い。両者の文化の共通点を見出し、それぞれの文化に込められた想いに目を向けることが少ない。知識では「日本と中国には関わりがある」と理解しているが、具体的に関わっているモノやことなどに触れる経験が少ないからだと思われる。在外教育施設に通い海外で生活する生徒だからこそ、異質に感じる文化からでも共通点を見出し、その文化に込められた想いに目を向けるようになって欲しい。

#### 【授業構想】

「令和」の出典元となった『万葉集』の「梅花の歌」の序文と中国の詩文集『文選』、さらに『万葉集』より「柳」を取り扱った「梅の花咲きたる園の青柳は縵(かづら)にすべく成りにけらずや」(少弐栗田大夫)と「田楽園」(王維)を取り上げる。

#### ①「梅花の歌」序文

【原文】于時，初春令月，氣淑風和，梅披鏡前之粉，蘭薰珮後之香。

#### ②『文選』(蕭統)卷十五 張衡「帰田賦」より

【原文】(於是)仲春令月 時和氣清 (原隰鬱茂 百草滋榮)

#### ③『万葉集』(817)

【書き下し文】梅の花咲きたる園の青柳は 縵かづらにすべく成りにけらずや (少弐栗田大夫)

#### ④「田園楽」(王維)

【原文】桃紅復含宿雨 柳緑更帶朝煙 花落家童未掃 鶯啼山客猶眠

①と②の共通点、③と④の共通点を見出し、両者に共通する仲春の雰囲気を言語化させたい。中国との関連を見出せる万葉集の作品を探させる。

#### 【意見交流】

①と②の共通するのは梅、③と④は柳

いずれも春を想起させるものとして見つけることはできる。

日本と中国は「よく似ている」というところで終わっていいのか  
異質点はないのかという視点があっていい。古典を学ぶことは文化の違いを学ぶこと  
「みんな違ってみんないい」でいいのか

そういう授業をよく見かけるが、結局何が理解できたのかが分からない授業も少なくない  
「読みを深める」＝異質なものを取り入れる、違う読みを交流することで自分の読みを思考する  
共通点だけを見つけるのではなく、異質なところを明らかにすることも大事ではないか  
むしろ、その方がESDとしての価値があるのかも。

万葉集そのものが、異文化と知ったうえで編集されたものと言っていい  
子どもは柳をあまり見たことがない（中国北部では見られるが）  
時間軸、空間軸を超えた教材として魅力的

## 2. 坂元さん 卒業論文「中学校国語科における万葉集の指導研究

—郷土の万葉歌・歴史を貫く万葉歌に着目する単元開発—の意見交流

### 【第4章 万葉歌を中心とした単元開発】

#### ○磐之媛に関連する一連の万葉集の教材化

万葉集では次の4首がセットになって、「待つ女」として描かれている。

君が行き 日長くなりぬ 山たづね 迎へか行かむ 待ちにか待たむ  
かくばかり 恋いつつあらずは 高山の 磐根し枕きて 死なましものを  
ありつつも 君をば待たむ 打ち靡く わが黒髪に 霜の置くまでに  
秋の田の 穂の上に霧らむ 朝霞 何処辺の方に わが恋い止まむ

古事記では「嫉妬深い女」として描かれており、人物像に違いがある。

日本書紀の歌も調べてみてはどうか

当時の女性への見方が残っているという点で興味深い。

#### ○「浦島太郎」の伝説に関わる万葉歌・おとぎ話・昔話など、歴史を縦断する教材の開発と指導構想

万葉集、風土記、御伽草子、昔話における浦島太郎の4作品を、7つの場面について比較する。

浦島太郎の歌も知らない子どもが増えている。歌はストーリーを追える。

玉手箱を開ける場面では、

… 御伽草子では、箱を開けると年齢が変わり、鶴の姿となり大空に飛び立つ  
昔話は時代や地域によっていろいろな違いがある。歌の内容とも違うことも。

話の違う本の比較をすると面白いかも。

「教科書に載っていることがすべてではない」教科書を批判的に見ることの大切さ

次回は1月16日（土）10時30分～

学習指導案、実践報告の交流（できれば現地で万葉文化館見学なども）